

この人

やまねミュージアム館長

みなと しゅうさく
湊 秋作 さん 56



アンテナを使ってヤマネの場所を探す湊さん(北杜市の清里高原で)

清里高原にある「やまねミュージアム」の館長としてヤマネの生態の研究や保全を行っている。国内でのヤマネ研究の第一人者だ。

ネズミの仲間で、体長約8センチ、体重は平均で18グラム。手のひらに乗る小さな体に、謎と魅力が詰まっているんです。一番の魅力は「体温の調節

機能の不思議にある」。1日の平均気温が8・8度を下回ると、ヤマネは冬眠に入る。

この時、エネルギー消費を防ぐために体温を0度近くまで下げる。

森を守り、ヤマネを守る

和歌山県那智勝浦町出身。都留文科大に入学したのは「受かった大学がたまたま、山梨だったから」。和歌山県で小学校教員を8年間務めた後、京大で研究。ヤマネの繁殖についての博士論文を書いた。現在は北杜市高根町に住む。

社などと共同でヤマネの通り道「アニマルパスウェイ」の開発を進めている。

1辺約30センチの三角形の鉄製フレームに、銅板を敷いて作った長さ約15メートルの橋を2年前の夏、清里高原の車道の上にかけた。2本目も今夏、八ヶ岳山ろくに完成する予定だ。

ヤマネとの出会いは都留文科大2年のとき。子どもの頃から生き物が好きで、生物の研究がしたいと思っていた。学長に、当時「ヤマネ研究の先駆者」と言われていた東京教育大の名誉教授・下泉重

科大2年のとき。子どもの頃から生き物が好きで、生物の研究がしたいと思っていた。学長に、当時「ヤマネ研究の先駆者」と言われていた東京教育大の名誉教授・下泉重

な自然林が残されているところには珍しい」

愛らしいヤマネの魅力とともに、森林保全の大切さも清里高

原から発信していくつもりだ。

吉氏が就任すると、学長室に単身で押しかけ、頼み込んだ。

道路や鉄道で分断された森の橋渡しをしようと、建設会

だ。

(小谷毅彦)